

令和3年度 学校自己評価(成果と課題、対応策)

兵庫県立西神戸高等特別支援学校

学校教育目標:「自立して生きる力を育むために、主体的に考え動ける人づくり」

令和3年度学校運営方針:「縦・横連携を重視した教育活動と組織づくり」

- ①安全・安心な教育活動の推進 新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた学習活動
- ②個別の教育支援計画/移行支援計画」「個別の指導計画」の活用推進
- ③「新学習指導要領」に基づく目標・内容・指導内容を確認し、現状の整理
- ④働きがいのある学校づくりの推進 (1) 在校等時間の適正な管理(従事時間申告表) (2) 教職員のタイムマネジメントの意識の向上

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	4	3	2	1	未	成果と課題	次年度の対応策
学校運営	開かれた学校づくり	学校評議員制度等を活用した学校運営の推進	評議員からの意見を教職員にフィードバックし、教育実践及び学校運営に生かす。	7.8%	62.7%	15.7%	2.0%	11.8%	令和3年度の評価を学校運営方針に取り入れた。学校評議員会を2回開催できた。学校評価の実施計画を見直しが課題である。	学校評価の実施計画を見直し、年度当初に提示する。
		家庭や地域への情報発信	学校ホームページ、学校だより、学年通信等を通じて、学校の情報を可能な限り公表する。	43.1%	49.0%	7.8%	0.0%	0.0%	年間を通じてHP(ブログ)や学年通信等の定期配信を行った。また、楽メールや動画配信サービスを利用して、情報発信を行うことができた。	行事アンケートや学校評価など、保護者や生徒向けのアンケートをWEB回答で行った。今後も効果的に活用できるよう、環境整備を行う。
		地域との連携	各関係機関と連携し、サテライトデイや実習等の取組を実施する。	39.2%	52.9%	7.8%	0.0%	0.0%	新型コロナウイルスの影響で活動しにくかったが、各関係機関と連携し、状況に合わせて実施することが出来た。	次年度においても活動しにくい状況が続くと思われるので、この状況下で実施できる取り組みを考える。
	生徒指導	いじめの未然防止	いじめ対策委員会を定期的に実施する。ココロ34を実施し、結果の分析を踏まえてクラス活動に取り組めるようにする。	25.5%	64.7%	7.8%	0.0%	2.0%	生活アンケートの後に3回いじめ対策委員会を行うことができ情報を共有できた。アンケート後第2次聞き取りを速やかに行い、いじめへの対応ができた。	いじめ防止基本方針の見直しと、方針に沿った取り組みを行う。いじめの未然防止の観点からココロ34を活用し、集団活動をLHRやSHRで実施する。
	生徒支援	生徒一人ひとりの実態に応じた指導と支援	生徒一人ひとりの障害や特性を把握して個別の指導計画を作成し、個に応じた指導を行う。	13.7%	76.5%	9.8%	0.0%	0.0%	生徒・保護者、個別の教育支援計画等から引継ぎ、入学後はWISC-IV、STRAW-R等を実施、認知面の特性を再確認し、教科領域の目標及び有効な手立てを立案し指導した。	認知面の特性理解を深め、研究での取組を軸に、個別最適化と協働的な学びを一体的に充実させる。
	進路指導	卒業生の就労定着を支援する体制づくり	各関係機関と連携し、定着訪問を実施する。本人や保護者、旧担任とも連絡を取りながら、丁寧な定着支援を実施する。	17.6%	49.0%	17.6%	0.0%	15.7%	昨年度と同様、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、十分な企業訪問ができず、電話での対応が多かった。ただ、就労状況が安定しないケースでは、ある程度継続的に丁寧に対応できたと考えている。就ポツやジョブコーチとのより一層の連携と協力が必要である。	本来、計画している企業への定着訪問を実施し、卒業生の就労状況について丁寧な情報収集を行う。また、就労状況が安定しないケースについては、引き続き(各関係機関・保護者との)連携・協力を図り、丁寧な対応を行う。
		「自分らしく働く」ための取組	実習を通して生徒の自己理解を促し、保護者への進路ガイダンスを丁寧に進めていく。	23.5%	56.9%	7.8%	5.9%	5.9%	昨年度と同様、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、計画通りに実習が進められないケースも多く見られたが、可能な限り実施でき、自己理解を深める取り組みができたと考えている。	段階的に自己理解が深まるように、計画的な体験実習を実施する。また、生徒ひとりひとりの丁寧な実態把握に努める。
	研究	主体的に授業に参加し、ねらいに向かう力の育成～指導と評価の一体化～	主体的に授業に参加できるように授業内容を工夫したり、改善をする。	7.8%	74.5%	15.7%	0.0%	2.0%	学校適応感尺度アセスの実施と授業動画の検証をおこない、個々の適応感や生徒同士の関わりを見取り、指導・支援の共通理解、社会性の育成に向けて授業改善を図った。	適応感の向上、主体的な参加を目指し、見通しを立てるための話題の事前分析や情報の視覚化、思考ツールの活用、集団での意思決定の機会を通して、社会性の育成を目指したい。
	危機管理体制の整備	新型コロナウイルス感染症の対策	校内の状況にふさわしい感染症対策への取り組みを行う。	31.4%	66.7%	0.0%	2.0%	0.0%	生徒保健委員会活動と連携し、生徒が日常の主体的な感染防止対策に取り組んだ。	必要な感染防止対策への取り組みの継続、生徒自身による感染防止行動の定着
		危機管理体制の整備	防災管理体制、様々な危機への対応できるよう整備を進める。	11.8%	66.7%	15.7%	0.0%	5.9%	生徒への防災用品の配布を、12月から4月にした。新型コロナウイルスの影響で職員研修が十分にできなかった。	職員研修の充実を図る。危機管理マニュアルの見直しを行う。
働きがいのある学校づくり	業務量の適正な管理	校務・業務の適正化により、超過勤務を減らすよう努める。	3.9%	52.9%	41.2%	2.0%	0.0%	情報共有を事前に記入するなど工夫をしていたが、会議等が5時以降に延長することがあった。会議記録を作成し、報告ができた。会議や校務など年間計画を活用した見通しのある組織運営が課題である。	各部署の会議の記録作成報告を継続する。管理職は学年会や校務部会および委員会の状況を確認し、課題解決が行われるようにする。	
学校事務	望ましい教育環境の整備	必要な物品が適切な時期に納品されるよう、教育環境をよりよく整える。納品までのスケジュールをわかりやすくする。	29.4%	58.8%	3.9%	0.0%	7.8%	教員と連絡を密に取るにより限られた予算を有効かつ速やかに執行することができた。	年々厳しくなる予算状況や、県費での物品購入等のながれを全職員で共有し、教育環境の充実に努める。	

教育課程	教育課程の改善	課題解決に向けて、教育課程の見直しを行う。	17.6%	70.6%	7.8%	0.0%	3.9%	教務部で原案を作成し、教育課程委員会を中心に検討を重ね、教育課程の見直しを行うことができた。	今回の見直しが適当であったか、今後数年の中で検証をしていく必要がある。	
	LHR、総合的な探究の時間の年間指導計画の見直し	年間指導計画を見直しを行い、各学年のLHR、総合的な探究の時間の年間指導計画を作成する。	9.8%	64.7%	21.6%	2.0%	2.0%	研究の時間で、課題を洗い出し、見直しを始めることができたが、年間指導計画の作成までは至らなかった。	教務部と各学年が連携しながら、各授業のねらいを明確にし、年間指導計画を作成する。	
	キャリア教育	卒業後の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる取組みの推進	全授業及び実習、定着支援等で出てきた課題を教職員が共通理解し、教育活動に活かす。	11.8%	58.8%	25.5%	2.0%	2.0%	委員会で、本校のキャリア教育の課題を検討することができたが、職員へのアンケートまでは至らなかった。	職員へのアンケートを実施し、本校のキャリア教育における課題を整理し、職員間で共通理解できるようにする必要がある。
	人権教育・道徳教育	人権教育及び道徳教育の推進	人権課題の項目内容を検討。複数の授業で取り扱っている内容を整理し、道徳教育の全体計画を見直す。	2.0%	66.7%	23.5%	3.9%	3.9%	道徳教育の全体計画を見直し、他の全体計画と様式を揃え作成することができた。	全体計画の内容が適当が検証する必要がある。また、道徳の時間の指導について、年間指導計画を作成する。
	情報教育	これからの時代に即応した情報教育の推進	個人情報の取り扱いや使用上のルールを示し、ICTを活用した学習を可能にする環境作りに取り組む。	19.6%	66.7%	9.8%	0.0%	3.9%	ICTを活用し、調べ学習など効果的な授業が展開できた。また、Googleクラスルームを利用して、家庭への資料配布や生徒の学習支援を行うことができた。	ZoomやGoogleクラスルームなどのオンラインツールを利用する上で、アカウントなどの情報の取り扱いや使用上のルールを徹底する。
	交流及び共同学習	ともに生きともに働く地域社会の実現のための取組の推進	近隣校との交流及び共同学習、地域でのサテライトデイ等の取組を推進する。	15.7%	68.6%	11.8%	0.0%	3.9%	小学校での清掃指導、高塚高校との交流で、直接関わるものと、リモートでの交流を行い、それぞれのよい面と課題があった。	直接交流に対して抵抗感のある生徒が若干名いる為、リモートを効果的に活用して不安要素を取り除く必要がある。

4:十分できている 3:おおむねできている 2:あまりできていない 1:できていない、改善を要する 未:直接担当していない職員等で判断が困難

【緊急検討項目】桃色:1+2⇒40%以上 【要検討項目】黄色:1+2⇒30%以上40%未満 【要注意項目】水色:1+2⇒20%以上30%未満

【努力評価項目】緑色:3+4⇒75%以上